

2021年度 外国語学部【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
1. 教員組織の編成と運営 (1)適切な組織編制 ①教授・准教授・助教のバランス ②専攻別のバランス ③男女のバランス ④年齢別の割合 ⑤学術型教員、実務型教員の割合 (2)FDの状況 ①科研費の採択 ②FD研修会の実施	1. 全体として、ほぼ実施。 (1)適切な組織編制(教員の比率) ①教授:准教授:助教=14:12:1 ②ビジネス専攻:教養専攻=7:11 ③男:女=15:12 ④60代:50代:40代:30代=11:7:8:1 ⑤学術型:実務型=23:4 (2)FDの状況 ①新規3、継続: 8 ②必要に応じて実施。	1. 全体90% (1)90%  (2)90%	1. 全体として、A (1)A ①A ②B ③A ④A ⑤B (2)A ①B ②A	1. 全体として、良好。 (1)適切な組織編制 ①良好。 ②ほぼ同数が望ましい。 ③ほぼ同数が望ましい。 ④良好。 ⑤実務増員が望ましい。 (2)FDの状況 ①新規増加が望ましい。 ②良好	1. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)適切な組織編制 ①現状の維持を目指す。 ②新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。 ③新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。 ④現状の維持を目指す。 ⑤新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。 (2)FDの状況 ①新規採用の増加を目標とする。 ②現状の維持を目指す。
2. 学生募集(とくに入学試験)の目標と達成 (1)定員の充足 ①学部の定員 ②専攻別学生数のバランス	2. 全体として、ほぼ実施。 (1)定員の充足 ①充足率(全体): 89%(2022/4/1) ②国際ビジネス: 国際教養=53: 47%	2. 全体90%	2. 全体としてB (1)定員の充足 ①B(2022年度入学者減) ②A	2. 全体として、健闘。 (1)定員の充足 ①新生の定員割れ ②良好。	2. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)定員の充足 ①定員充足のためあらゆる対策を講じる。 ②専攻別入学者数のバランスを維持する。
3. 教育目標の設定と達成 (1)授業満足度の向上 (2)少人数教育の実施(学生定員1040/専任教員数) (3)退学率の低減 (4)卒業留年率(現役4年生、成績不振による)の低減 (5)学修成果の評価と可視化 ①DP到達度チェックの実施 ②外部試験の導入	3. 全体として、ほぼ実施。 (1)「満足」率、各学年とも70%前後 (2)学生数/専任教員数: 37/1 (3)6.3%(昨年度4.5%) (4)国ビ: 12.8%、国教: 12.2% (5)学修成果の評価と可視化 ①予定通り実施。 ②予定通り実施。	3. 全体80% (1)80% (2)90% (3)70% (4)70% (5)80% ①80% ②80%	3. 全体として、B (1)B (2)A (3)B (4)B (5)B ①B ②B	3. 全体として、改善必要 (1)改善継続が望ましい。 (2)改善継続が望ましい。 (3)2年ゼミ新設が必要。 (4)改善継続が望ましい。 (5)新たな改善が必要。 ①実施率改善が必要。 ②フィードバック弱い。	3. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)FD研修など、満足度向上の対策を講じる。 (2)全学年に少人数ゼミ形式科目の導入を検討する。 (3)履修指導など、クラス担任による指導を強化する。 (4)履修指導など、クラス担任による指導を強化する。 (5)学修成果の評価と可視化 ①委員会、プロジェクトチームによる改善案の策定。 ②委員会による改善案の策定。
4. 学生支援目標の設定と達成 (1)新入生特別研修 (2)奨学金制度 ①活用 ②学生支援機構奨学金延滞率 (3)文化教養講座の実施 (4)英語スピーチ大会などへの参加 ①学外の各種プレゼン大会 ②学内英語スピーチ大会	4. 全体として、ほぼ実施 (1)オンライン実施 (2)奨学金制度 ①コロナ禍の特別支援の実施。 ②5.9%。在学中の学生指導を実施。 (3)オンライン実施2回 (4)大会などへの参加 ①複数の入賞(プレゼン、英・韓弁論) ②英語スピーチコンテストの復活	4. 全体95% (1)100% (2)90% (3)100% (4)100% ①100% ②100%	4. 全体として、A (1)A (2)A ①A ②B (3)A (4)A ①A ②A	4. 全体として、良好。 (1)参加率改善が必要。 (2)良好。 ①活用率が高い。 ②延滞率改善が必要。 (3)プログラムを継続する (4)良好。 ①プレゼン1、英2、韓2。 ②参加者10名。	4. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)参加率を上げる。 (2)現状維持を目指す。 ①活用率の維持 ②奨学生の就職率を高める対策を講じる。 (3)プログラムを継続する。 (4)現状維持を目指す。 ①支援制度を検討する。 ②改善案(他大との共同開催)を検討する。
5. 国際交流(とくに留学)目標の設定と達成 (1)学生の派遣・受け入れの促進 ①派遣 (i)留学特待生、姉妹校交換留学 (ii)語学研修(短期と長期) ②受け入れ (i)連携教育プログラム (ii)姉妹校からの受け入れ (2)教員レベルの国際交流の強化 ①派遣 ②受け入れ (3)チャットラウンジ利用 ①対面 ②オンライン	5. 全体として、オンライン以外、ほぼ中止 (1)学生の派遣・受け入れ ①派遣 (i)交換留学5、オンライン14 (ii)派遣中止。オンライン実施。 ②受け入れ (i)中止 (ii)一部受け入れ。 (2)教員レベルの国際交流の強化 ①なし ②中止 (3) ①対面: 延べ1620人 ②オンライン: 延べ2748人	5. 全体70% (1)75% ①65% (i)75% (ii)50% ②50% (i)0% (ii)60% (2)0% ①0% ②0% (3)100% ①100% ②100%	5. 全体として、評価できない。 (1)評価できない。 ①B (i)B (ii)B ②B (i)評価できない。 (ii)B (2)評価できない。 (i)評価できない。 (ii)評価できない。 (3)A ①A ②A	5. 全体として、健闘 (1)コロナ禍のため。 ①派遣 (i)合格者の資格延長 (ii)合格者の資格延長 ②受け入れ (i)コロナ禍のため。 (ii)健闘。 (2)コロナ禍のため。 (i)コロナ禍のため。 (ii)コロナ禍のため。 (3)良好。 ①良好。 ②良好。	5. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)学生の派遣・受け入れの促進(国内留学を含む) ①派遣(オンライン実施を含めて検討) (i)留学特待生、交換留学の完全実施を目指す。 (ii)語学研修の完全実施を目指す。 ②受け入れ(オンライン実施を含めて検討) (i)連携教育プログラム。 (ii)姉妹校からの受け入れを促進。 (2)教員レベルの国際交流の強化 (i)教員の在外研修の実施を目指す。 (ii)姉妹校からの訪問研究を目指す。 (3)現状維持を目指す。使用言語の多様化を目指す。 ①現状維持を目指す。 ②現状維持を目指す。
6. 進路(とくに就職)目標の設定と目標 (1)就職率の向上 (2)長期インターンシップへの参加 (3)英語教員の養成	6. 全体として、ほぼ実施。 (1)就職率91.1%(2022.3.31) (2)国内参加35、海外(オンライン含)8 (3)採用9名	6. 全体90% (1)91% (2)80% (3)90%	6. 全体として、A (1)A (2)B (3)A	6. 全体として、良好。 (1)前年度より若干低い。 (2)参加率が低い。 (3)志望者が少ない。	6. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)就職率を100%に近づける。 (2)国内参加率を維持し、海外参加率をあげる。 (3)志望者を増やす。
7. 地域貢献 (1)文京区との連携 (2)近隣町会活動への貢献 (3)その他の自治体との連携	7. 全体として、ほぼ実施。 (1)文京区立第六中学と包括協定締結 (2)例祭への参加(おみこし)中止 (3)長岡市の国際交流活動に参加	7. 全体80% (1)100% (2)0% (3)100%	7. 全体として、A (1)A (2)評価できない (3)A	7. 全体として、良好。 (1)ボランティア活動実施 (2)コロナ禍のため (3)オンライン実施	7. 2021年度の計画を2022年度にも踏襲する。 (1)区内の他の公立校との連携を目指す。 (2)感染状況によるが、例祭への参加を目指す。 (3)長岡市との連携の継続を目指す。

2022年度 外国語学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1. 教員組織の編成と運営 (1)適切な組織編制 ①教授・准教授・助教のバランス ②専攻別のバランス ③男女のバランス ④年齢別の割合 ⑤学術型教員、実務型教員の割合 (2)FDの状況 ①科研費の採択 ②FD研修会の実施
2. 学生募集(とくに入学試験)の目標と達成 (1)定員の安定的確保 ①学部の定員 ②専攻別入学者数のバランス (2)学部改革 ①入試改革 ②英語教育改革 ③2年基礎ゼミ設置 ④PBL型授業導入 ⑤レイクランド大学日本校との交流(短期構内留学など)
3. 教育目標の設定と達成 (1)授業満足度の向上 (2)全学年に少人数ゼミ形式科目の導入 (3)退学率の低減 (4)留年率(現役4年生、成績不振による)の低減 (5)学修成果の評価と可視化 ①DP到達度チェックの実施 ②外部試験の導入(フィードバック強化)
4. 学生支援目標の設定と達成 (1)新入生特別研修 (2)奨学金制度 ①活用 ②学生支援機構奨学金延滞率 (3)文化教養講座の実施 (4)英語スピーチ大会などへの参加 ①学外の各種プレゼン大会 ②学内英語スピーチ大会(他大との共同開催)
5. 国際交流(とくに留学)目標の設定と達成 (1)学生の派遣・受け入れの促進 ①派遣 (i)留学特待生、姉妹校交換留学 (ii)語学研修(短期と長期) ②受け入れ (i)連携教育プログラム (ii)姉妹校からの受け入れ (2)教員レベルの国際交流の強化 ①派遣(教員の在外研修を目指す。) ②受け入れ(教員の在外研修を目指す。) (3)チャットラウンジ利用(姉妹校からの訪問研究を目指す。) ①対面 ②オンライン
6. 進路(とくに就職)目標の設定と目標 (1)就職率の向上 (2)インターンシップの強化 (3)英語教員の養成
7. 地域貢献 (1)文京区との連携 (2)町会活動への貢献 (3)その他の自治体との連携